



私部城跡が市指定文化財に指定されました。  
詳細は6ページをご覧ください。



問い合わせ  
社会教育課文化財係(TEL 893-8111)



## 古文書の信頼性

古文書とは、一般的に昔の人が書いた手紙や日記、伝記などのことを言います。先月号までの私部城の歴史についても、それらの古文書から得た情報をもとに紹介しました。

貴重な史料となる古文書ですが、記載内容が全て事実かどうかは注意が必要です。例えば日記や伝記などは、現代に伝わらるまで何度も複製されています。昔は人の手による複製のため、誤字・脱字がありますし、中には多少の改変を加える人もいます。

当コーナーで度々紹介した『信長公記』も、原作者である太田牛一(おわたのういち)のものは一部しか残っておらず、『原本信長記』(げんぽんしんちょうき)『信長日記』(しんちょうにっき)などの名称で多くの複製が作られています。一般的には、これらをまとめて『信長公記』と呼んでいます。

私部城に関しても、城主の安見右近(やすみみうこん)「安見左近」と間違えて記している日記もあり、古文書により誤った情報が伝えられることもよくあります。



『原本信長記』  
(国立公文書館所蔵)

## 「偽」の城主、安見直政

もう一つ、古文書を疑わないといけないことは、うその文書を作る人がいることです。これを「偽文書」といいます。なぜ偽文書を作るかというと、身分を偽ったり、土地の所有権争いの際に、その土地は自分の祖先が所有していたと偽るために作られます。

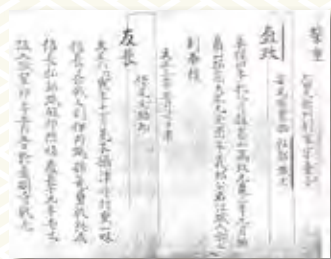
実は、私部城の歴史もこの偽文書の被害にあっています。安見氏の歴史が詳しく記されている「保見氏系図譜」という史料があり、長らくこの史料を本物として私部城の歴史が研究されてきました。

これには、私部城主に安見図書助直政という人物がいたと記されています。『信長公記』に登場する安見氏は、この直政だと信じられてきましたが、近年、この文書は近畿地方を中心に偽文書作家として活躍した椿井政隆(1770-1837)という人が作ったものであることが分かりました。

この偽文書が作られた経緯は不明ですが、この文書の系譜は天皇から始まっており、本物であったならば安見氏は天皇の血を引く由緒ある家柄となり、歴史口マンのある話であったと思います。



「保見氏系図譜」(タイトル部分)



「保見氏系図譜」(安見直政の箇所)

## 近世古文書合宿

今年の9月に、大阪大学大学院文学研究科の村田路人教授指導のもと、星の里いわふねで古文書調査の合宿が行われました。これは、同大学日本史研究室と市教育委員会で締結した協定に基づく調査で、市として初の試みになり、私部で地区に残る古文書を調査しました。

私部の古文書ですので、私部城に関わる新たな発見があるかもしれません。詳しい調査成果については、また後の号で紹介したいと思います。

